

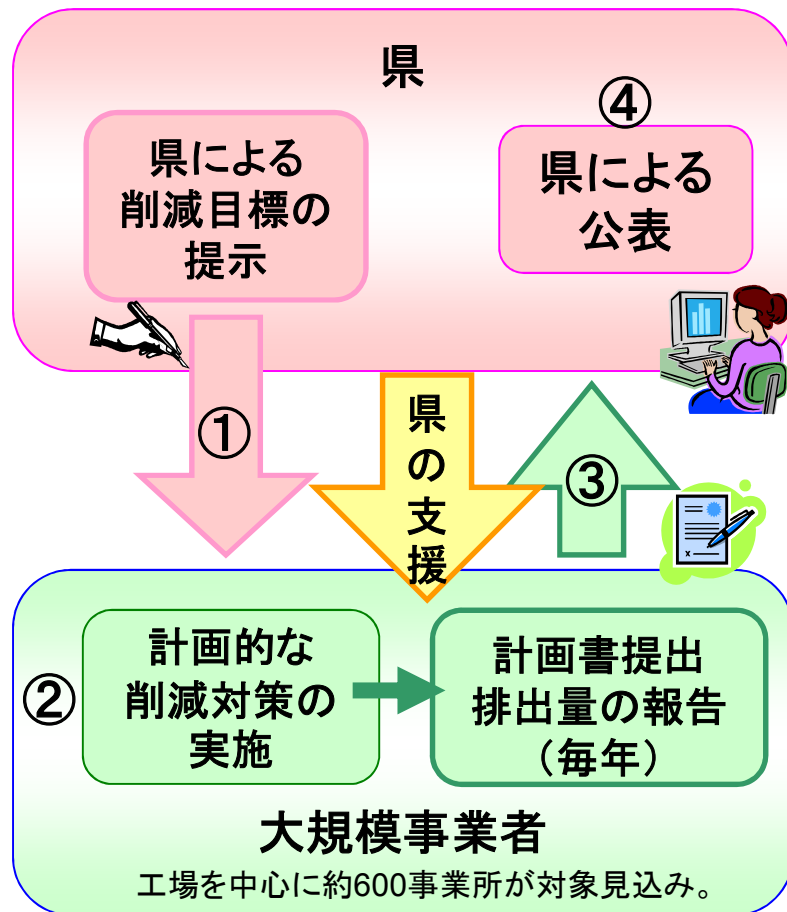


「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050」 早期に取り組むべき7つの重点施策に係る取組状況

平成22年3月
埼玉県

主な施策① ～目標設定型排出量取引制度の創設

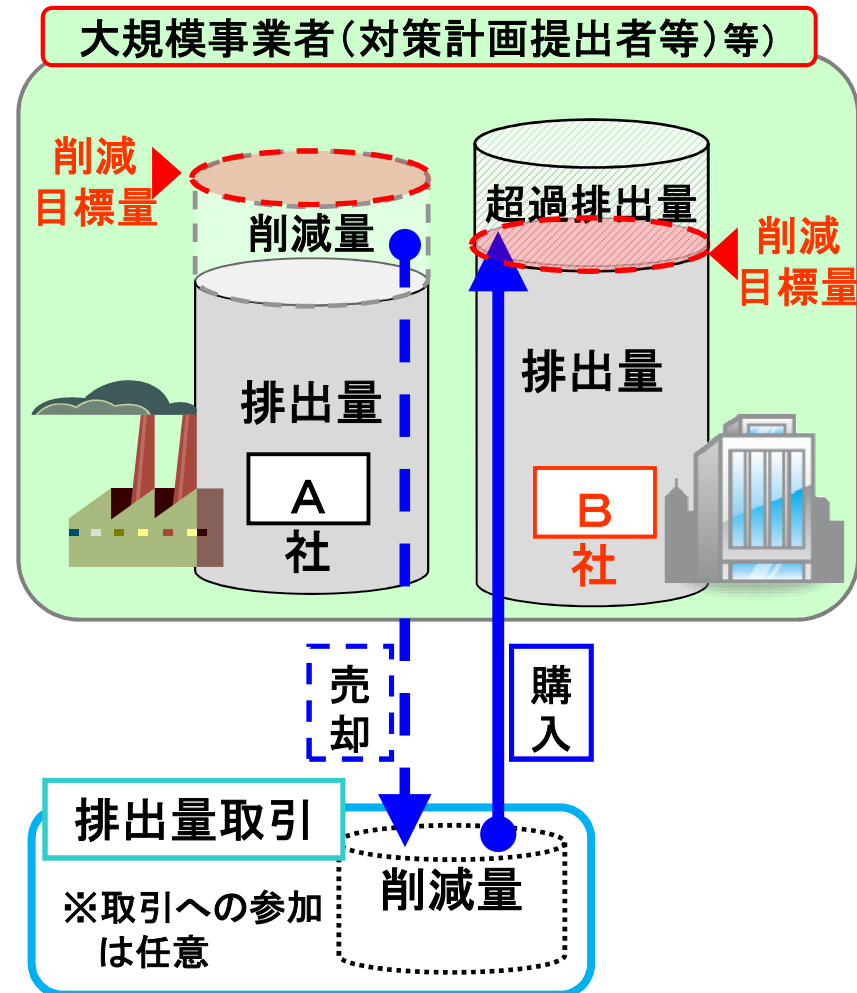
目標設定・計画書制度イメージ



※ 県から支援を受けた場合、削減は目標でなく義務化

※ 平成23年度から実施予定

排出量取引イメージ



※ 東京都では罰則付きの制度を22年度から実施予定(約1,300事業所が対象見込みでオフィス中心)

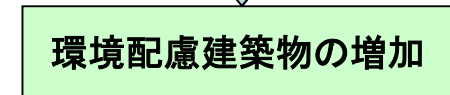
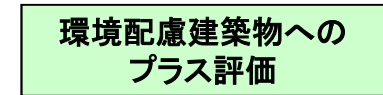
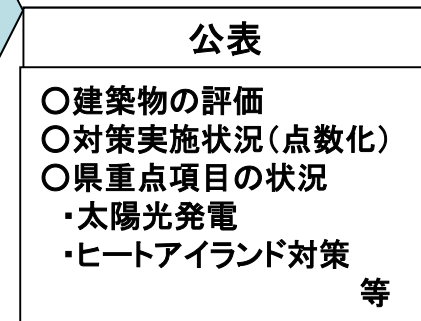
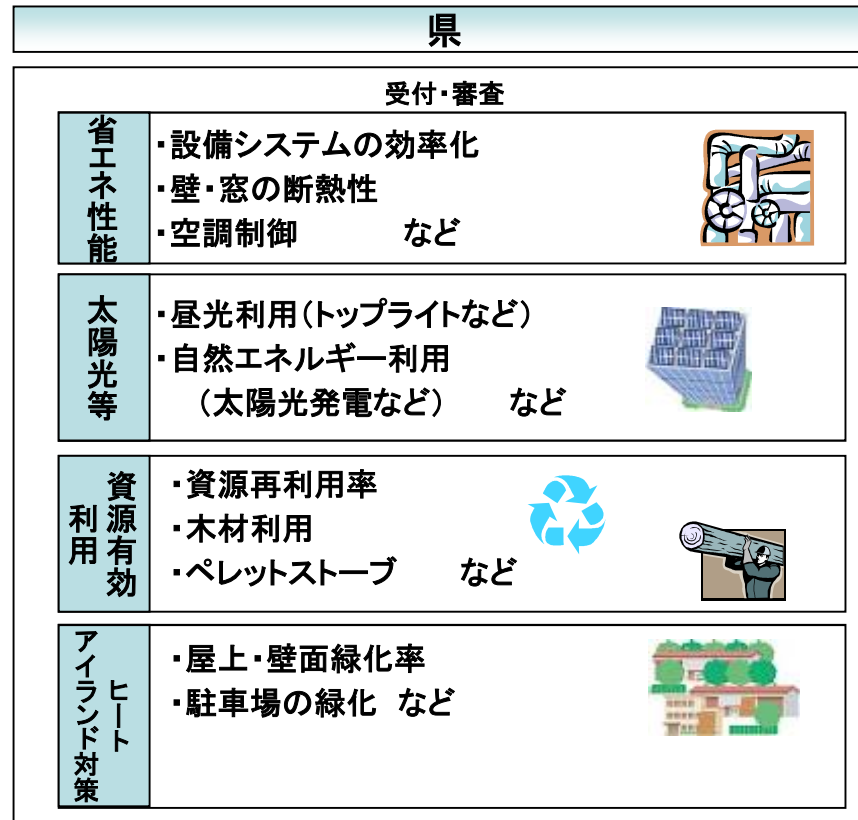
※ 国が排出量取引制度を導入する場合は、埼玉県の制度は国の制度と調整し融合させていく。

主な施策② ～建築物環境配慮計画制度

大規模建築物に対する対策

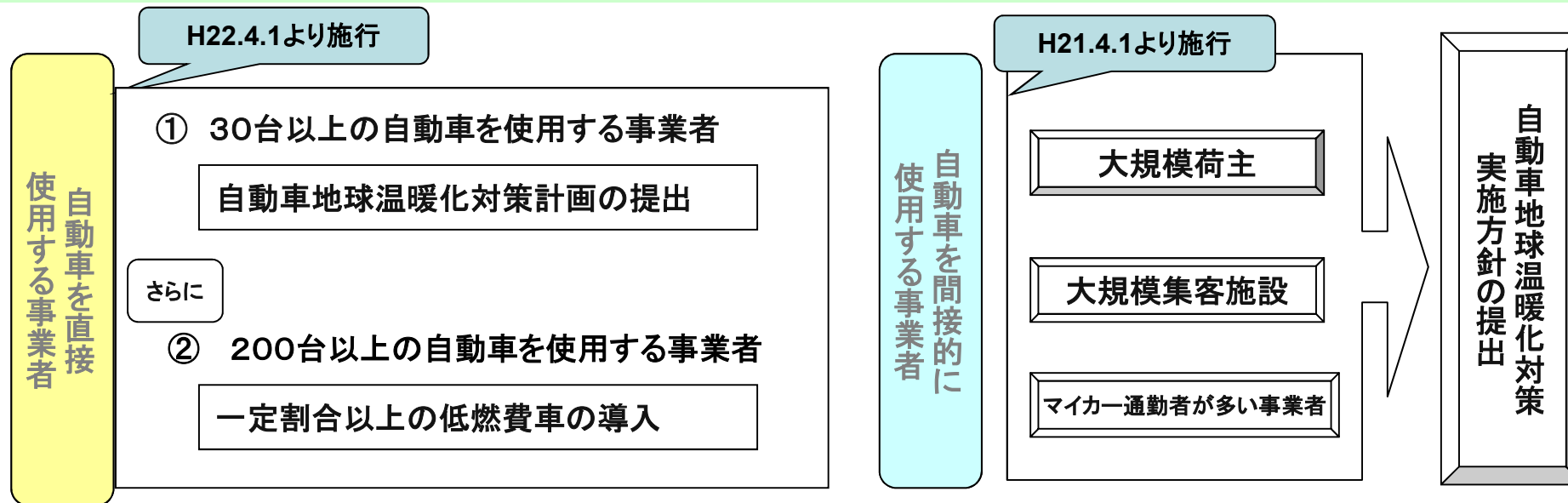


21.10.1より施行



主な施策③ ～自動車に係る温暖化対策

地球温暖化対策条例に基づく制度化



次世代自動車の普及促進

◇電気自動車の普及促進

県内事業者による電気自動車の導入に補助(30万円/台)
→ 通常車両との価格差の約10%を軽減

◇次世代自動車利用体験の拡大

多数の県民が利用する自動車の次世代自動車化に補助(25万円/台)
・ タクシー・ハイヤー・自動車教習所の教習車など
→ 車両価格の約20%を軽減



県公用車での率先実行

更新時の次世代自動車化

20年度末 104台(1,573台の7%)

21年度 次世代自動車を79台導入
184台(1,491台の12%)

2020年 次世代自動車を80%に!

主な施策④ ～家庭部門での対策

県民の意識を啓発し、具体的な取組に結び付けていくために

エコライフDAY

- ・簡単なチェックシート（1日環境家計簿）を使って1日エコライフに取り組む県民運動
- ・ライフスタイル転換のきっかけづくり

エコライフDAY2009(冬)チェックシート 中学校・高校一般用

下のエコライフ項目を見ながら、今日は1日、環境のことを考えて生活してみよう!!

- 1 冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた。(7g/1年で139円節約)
- 2 他の用事をすするときは、テレビを消した。(45g/1年で1148円節約)
- 3 テレビゲームをしなかった。(91g/1年で2286円節約)
- 4 テレビなど家電製品を使わないときは、主電源を切ったりコンセントからプラグを抜いた。(68g/1年で1719円節約)
- 5 扉を開ける時は、明かりを消した。(24g/1年で601円節約)
- 6 部屋の設定温度をいつもより低くした。(使わなかった)。(104g/ひと家で1213円節約)
- 7 家電製品を省エネタイプのものに買い換えた。(電球を電球型蛍光灯ランプに換えたり、省エネラベルの家電に買い換えるなど、ここ1か月のうちに換えた場合はチェックしてください)。(77g/1年で1927円節約)
- 8 お風呂はさめないうちに、みんなで続けて入った。(218g/1年で4934円節約)
- 9 お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめに止めた。(77g/1年で2648円節約)
- 10 トイレを使用しないときは、便座(暖房便座)のふたを閉めた。(38g/1年で788円節約)
- 11 野菜などの食料品は近くの産地のものを買った。(95g)
- 12 買い物をするとき、レジ袋をもらわなかった。(56g)
- 13 市町村のゴミ出しルールにしたがって分けた。(ビン・カン・ペットボトルなど)。(121g)

年間107万人の県民が参加 二酸化炭素877トン削減の効果※

※参加者が90日間エコライフを実践したとして試算



より継続的な省エネ行動の取組を促進

CO₂削減 家庭の電気ダイエットコンクール

1か月間節電して去年の電気使用量と比較して、少ない人を表彰

(電力会社の請求欄に前年同月の電気使用量が記載済み)

3,899家族(約10,000人)が参加

前年同期比で平均15%、最優秀家族は64%の電気消費量削減を達成

地域エコマネーの導入促進

環境に配慮した行動にポイント(エコマネー)を付与し、これを値引き等の特典と交換できる制度を、県内各地に普及し、環境配慮の自立的な取組を促進するとともに、県主導により、県内各地の取組の相互交流を推進する。

地域エコマネー導入促進事業費 ～新規立ち上げ支援及び相互流通促進～

普及・拡大

エコマネー制度の導入・運営に対する補助

<補助対象者・補助額上限>

制度導入初年度の団体(600千円×4団体)

<補助率> 2分の1

<補助対象経費> 制度導入・実施経費、PR経費、事務局運営費

<その他> 連絡協議会への参加を補助の条件とする。

県関係施設での特典付与

県関係施設への入館料割引等の特典とエコマネーを交換

相互流通推進

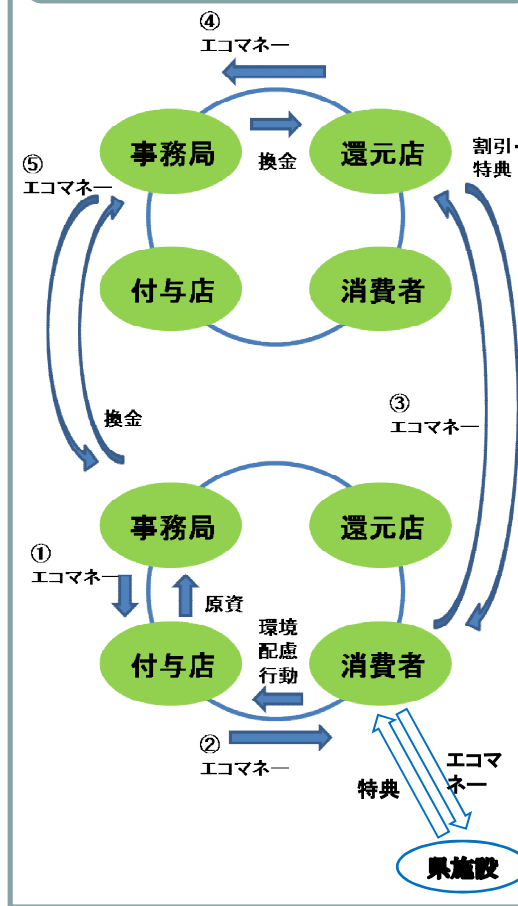
- ・制度導入初年度、導入次年度の団体
- ・地域通貨等に取り組む団体
- ・既に複数年度エコマネーに取り組んでいる団体

連絡協議会設置

情報交換等を通して、エコマネーへの理解を深め、制度の普及を促進

エコマネーの相互流通など、事業の幅広い展開を検討

相互流通のイメージ



主な施策⑤ ～深夜化するライフスタイルの見直し

【背景】深夜化するライフスタイルの見直しを進める中で、実証的な数値での具体的議論が課題に。

県内駅前繁華街2地区(熊谷・草加)で2週間実施

CO₂削減行動

- ① 夜10時以降の不要な照明の消灯
- ② 早めの退社等の取組を実施
- 店舗・オフィス・周辺住民へアンケート
- ※ 43ha(千代田区霞が関と同程度)で実施
- ※ 店舗83か所、オフィス83か所が協力
- ※ 2,291世帯の住民からアンケート回収
(2地区合計)

2地区平均で実験前と比べ推定で2.6%のCO₂削減

- ・店舗の売上げへの影響
→「あった」3%
- ・街の賑わいの点で
→「変化感じなかった」75%
- ・消灯で怖いと思ったこと
→「あった」2%

【社会実験】



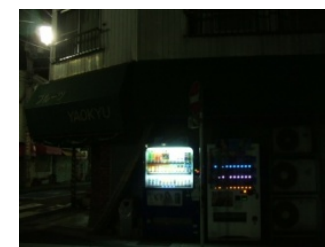
【熊谷地区】

消灯後



【草加地区】

消灯後



参考) 県内全てのオフィス・事務所等で残業時間を1時間短縮
24時間営業店舗を16時間に短縮
自動販売機について、屋外で昼・深夜の18時間消灯、屋内で常時消灯
県内全世帯で就寝時刻を1時間早める

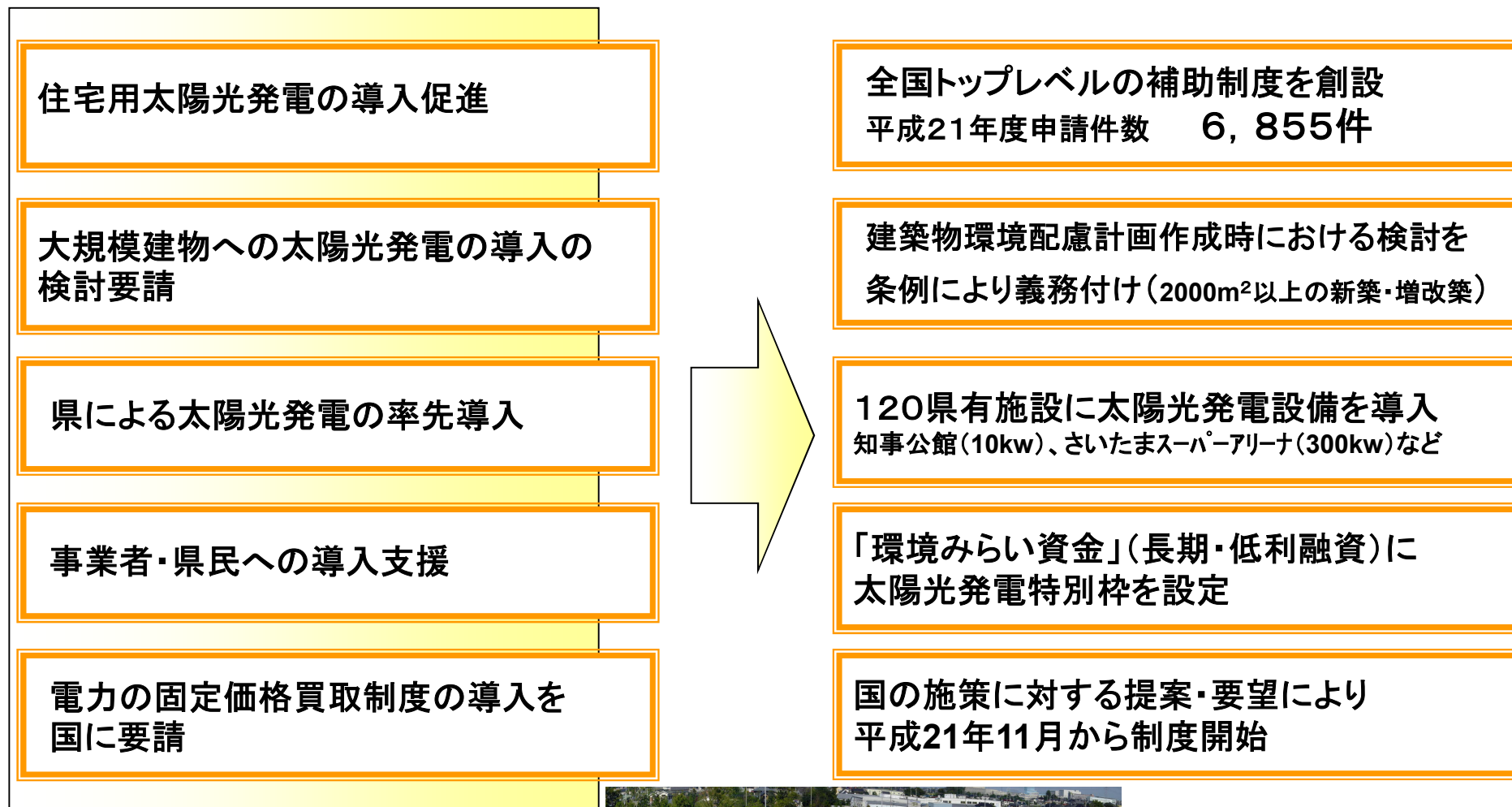
約40万トン(県全体の排出量の1%)削減

※全国では約1,300万トンの削減と見込まれる

深夜化するライフスタイル・ビジネススタイルの見直しは温暖化対策の面でも必要かつ実施可能。

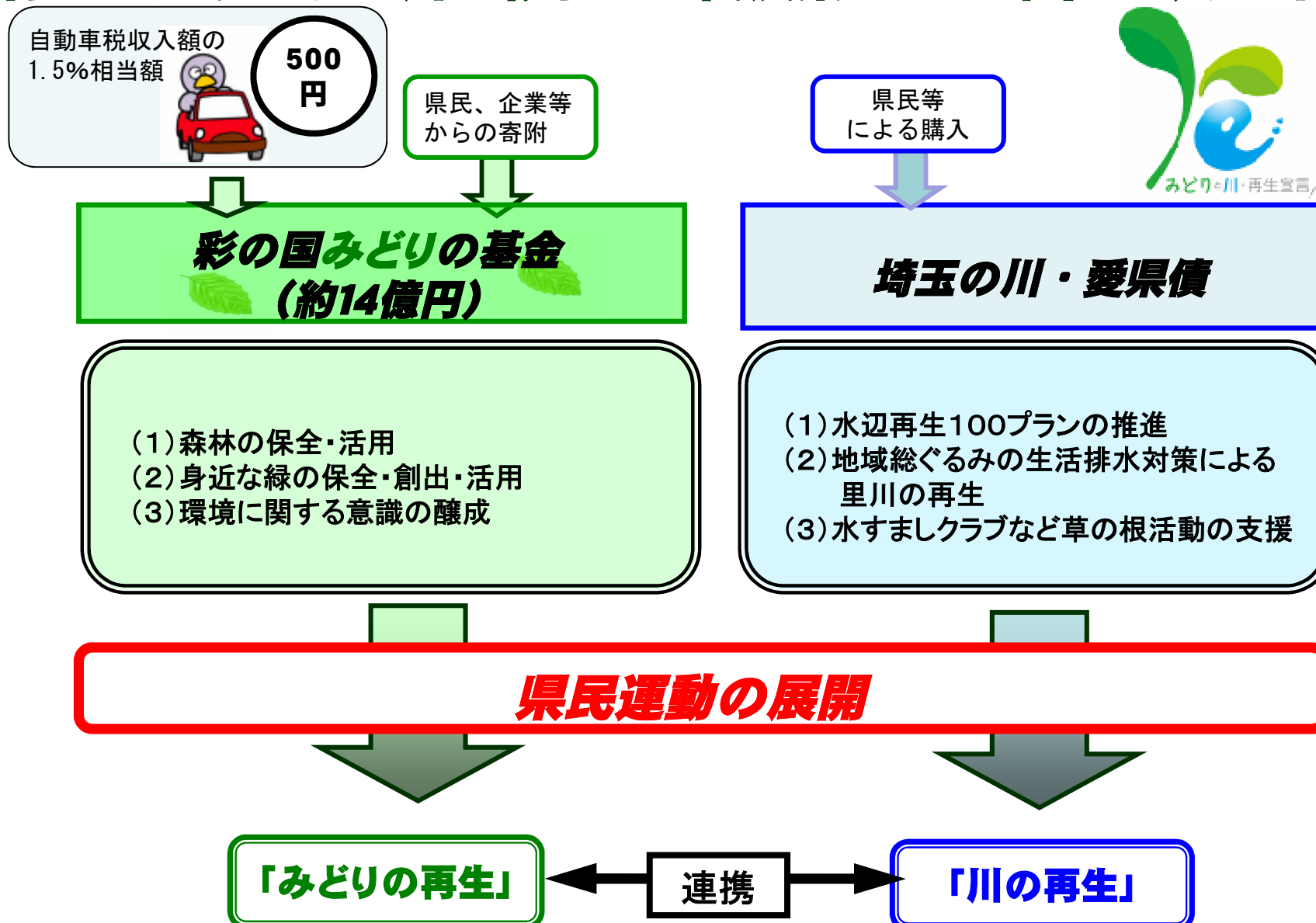
主な施策⑥ ～太陽光発電の普及拡大

○快晴日数日本一の本県の特徴を生かして太陽光発電の普及拡大を図る



主な施策⑦ ～みどりと川の再生

再生したみどりと川に彩られた低炭素な田園都市づくりに向けて



みどりの再生 ～森林の再生

自動車税の一部を活用した「彩の国みどりの基金」により
700ヘクタール(豊島区の半分の面積に相当)の森林を再生 (平成20年度)



針広混交林化に向けて整備された森林(秩父市)



整備された平地林 (鳩山町)

● 目標(H20～H23)

約3,000ヘクタール(JR山手線内側の約半分)の森林を再生

川の再生

目標

県民誰もが川に愛着を持ち
ふるさとを実感できる
「川の国 埼玉」の実現

地域による持続的・自立的な
改善行動・維持管理活動

清流の復活

水環境の改善
(水質・水量)

川の浄化
ムーブメント

川の再生

安らぎとにぎわいの空間創出

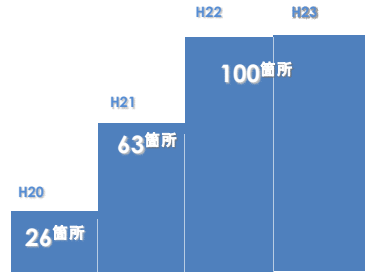
自然や親水機能
の保全・創出

水辺の魅力
創出・発信

埼玉が持つ 川のポテンシャル

「川の国 埼玉」の実現へ

地域資産価値の向上
地域コミュニティの復活



モデル5箇所を
2年で完成

水辺再生100プラン 4年で100箇所

川の再生を実感！

地域に広がり県民運動へ

全県的な
ムーブメントへ！

川の再生

水辺再生100プラン

川の再生モデル地区5カ所が完成

- 芝川(川口市、鳩ヶ谷市)
— 清流の復活
- 藤右衛門川(さいたま市、川口市)
— せせらぎづくり
- 柳瀬川(所沢市)
— 生態系の復元
- 元荒川(越谷市)
— 川のにぎわいづくり
- 東京葛西用水(越谷市、草加市、八潮市)
— 農業用水の水辺づくり

芝川(川口市、鳩ヶ谷市)

「清流の復活」



藤右衛門川(さいたま市、川口市)

「せせらぎづくり」



柳瀬川(所沢市)

「生態系の復元」

